

《発達の凸凹はなぜ起こる?》 ①～③の一部、または全部によって、発達が凸凹と言われています。

①入力（感覚／認知／愛着）の違い・ズレ

； 目・耳・鼻・味・皮膚・関節覚の過敏さ、また鈍感さ、愛情の受け取り能力の不具合

②情報処理（脳システム*1）の違い・ズレ

； 識別・弁別の困難、心の理論の不調、言語化の不調、記憶の混乱、複数同時並行・段取りの困難、注意のアンバランス、報酬系の未熟さ、二極化思考、想像力の不足、理論と感覚・情動のアンバランス

*1 脳システム：愛着システム・不安の神経回路・感情コントロール・抗 ADHD システム・心の理論・スキルの学習

③出力（出力量／自己表現／発語／協調運動）の違い・ズレ

； 出力認知、（フィードバックによる）出力調整の不調・困難

《発達凸凹の二次障害（SOS サイン）》

発達凸凹の脳は、皆と「同じ」に近づけるために、常に 100%頑張っています。

しかし、適切でない環境（100%以上を求める環境）に置かれる（叱責・罵倒・恐怖支配など）と、以下のような二次障害を生じます。

①自信喪失（自己肯定感の低下）・・・「どうせボクなんか」「どうせできないよ」

②抑うつ（不登校など）・・・「行きたいくない」

③反抗挑戦症（暴言や反抗）、行為障害（自傷、他害、器物破損）・・・「バカ」「クソ」「シネ」、叩く、蹴る、投げる、つば吐き

これらは、子どもから発せられる SOS サインで、直ちに対策が必要です。

《発達凸凹を支援するための視点》

オーダーメイド対応；子どもの行動をよく観察・分析して、個別に対応する

少しの援助でできることがある、独自の発達経路をたどる

見るところ、求めるところの見直し；今出来ること、ちょっとでも出来たことは何か？

努力しても修正できない部分がある（マイナスを無理になくそうとしない）

効果的に導く；良い注目（強化）と悪い注目（強化）を考える

すぐ、分かりやすく、短い言葉で褒める（認める：実況中継）

叱らずスルーして、指示を出して、観察する（待つ）→褒めるへつなげる

叱るべきことは少ない（本当に叱るべきか？叱らなくても済むことか？）

急には変わらない；スモールステップ、一段一段ステップを踏みながら

ゆっくり着実に（「すぐ次」はダメ）

成長を待てば解決することもある（“子どもは成長する”ことを忘れない）

困った子は困っている；本人に困り感はないことがほとんど

放っておくと自己評価は下がる（普通や同じを求めさせないで）

周囲が楽になる＝本人が楽になる

分かりやすく伝える（指示する、叱る）→「褒める」へつなげる

視覚支援；（耳で聞くより目で見た方が、確かな情報を早く受け取れる）・・・書こう（描こう）、見せよう

穏やかに、近づいて、静かに、短い単語で、具体的に指示する、ポジティブワードで話す・・・「～しないで」はダメ

《具体的な支援方法の例》

許容範囲を認めて、無理強いはいしない	許容ルールを決める、感覚過敏に配慮する
叱るより褒める	叱るを減らして褒めるを増やす「ペアトレ手法」を使う
集中しやすい環境をつくる	不要なものは視界から外す、構造化と視覚支援で分かり易さUP
指示や問いかけは分かりやすく	落ち着いて、近づいて、静かに、短い言葉で、きっぱりと 具体的に（見えるもの、できることで）表現、ポジティブワードを使う、選択させる
順番やルールを守らせる	あらかじめ約束、何度も確認、出来たら褒める
予定をはっきりさせる	予定を初めに示す（目標行動・スケジュール）＝見通しを立てる
特訓は不向き	回数を重ねる練習は不向き、じっくり考える時間的ゆとりを
パターンを決める	時間表を掲示する、時計（タイマーや時計）を見る癖をつける
苦手意識を持たせないように	ゼロ百思考（二極化思考）を理解する、失敗を減らす配慮
友達付き合いをサポートする	ソーシャルスキルを丁寧に教える、トラブルを事後解説する（反省会＝心の流れの解説をする）
周囲への理解	手本を見せる、どちらも悪く言わない
乱暴な言動への対処	クールダウンや感情コントロールの訓練
パニックの対応	原因除去、自傷行為に注意（危険回避）、クールダウン
不登校になりやすいことを知っておく	サインを見逃さない、原因を探る、教室登校にこだわらない